

第3回 伊根町立小学校再編準備委員会のまとめ

開催日 令和8年6月5日（金）

場 所 伊根町コミュニティセンターほっと館 多目的室

参加者 伊根町立小学校再編準備委員会委員、教育委員会事務局

1 開会挨拶（福島委員長）

2 報告事項

（1）運営部会所掌事務の進捗状況について

ア 学校等所掌事務

2小学校で再編に向けた部会を組織し、小学校同士の交流事業としての体力テスト合同実施や校舎・備品整理等が進行中である旨の説明がありました。

イ 教育委員会事務局等所掌事務

本庄小学校の解体設計、新校舎の基本設計の契約状況、ICT環境の移管状況、スクールバス運行計画作成、児童クラブ移転等の検討状況についての進捗状況を報告しました。

3 協議事項

（1）校名の選考について

校名の公募について、募集のあった52案（応募総数71件）の第一次選考を実施しました。

【選考方法】

当日出席委員による無記名投票（◎＝2票、○＝1票、計10案に投票）を行い、得票数2票以上であった28案を第二次選考へ進めることを決定しました。なお、選考結果や意見交換の内容は、今後の選考者に伝達することを確認しました。

（2）基本設計について

・視察研修について

6月26日に滋賀県近江八幡市の桐原小学校への視察研修を実施する旨を確認しました。

・アンケートについて

再編準備委員会が作成した児童及び住民向けアンケートの集計結果を報告しました。アンケートの結果は次のとおりでした。

【住民向けアンケート】

●回答総数 45件

地区別

伊根	18
本庄	17
朝妻	9
筒川	1

年代別

～10代	1
20代	1
30代	9
40代	10
50代	5
60代	10
70代～	9

性別

男	18
女	24
無回答	3

●新しい小学校施設において望むこと（上位3つ）

項目	回答件数	順位
廊下や教室の区分のない開放的な校舎	5	10
木のぬくもりが感じられる校舎	11	6
周囲の景観に配慮した施設	4	12
充実した図書施設	8	7
体育館や運動場の充実	17	1
ICT環境が整備された施設	6	8
ドローン、3Dプリンター等の先進技術を活用した設備	3	14
農園や田んぼなどの体験スペース	6	8
充実した給食施設	14	5
理科室、家庭科室、音楽室などの専門教室の充実	4	12
休み時間にくつろげるスペース	5	10
コミュニティ機能と学校機能を併設した地域に開かれた施設	17	1
防災拠点、避難所としての機能を有する施設	17	1
安全な学校生活のためセキュリティ機能を高くした施設	16	4

●新しい小学校施設において優先しなくてもよいこと（上位3つ）

項目	回答件数	順位
廊下や教室の区分のない開放的な校舎	18	2
木のぬくもりが感じられる校舎	10	5
周囲の景観に配慮した施設	11	4
充実した図書施設	5	9
体育館や運動場の充実	1	12
ICT環境が整備された施設	10	5
ドローン、3Dプリンター等の先進技術を活用した設備	23	1
農園や田んぼなどの体験スペース	18	2
充実した給食施設	1	12
理科室、家庭科室、音楽室などの専門教室の充実	2	11
休み時間にくつろげるスペース	8	7
コミュニティ機能と学校機能を併設した地域に開かれた施設	6	8
防災拠点、避難所としての機能を有する施設	1	12
安全な学校生活のためセキュリティ機能を高くした施設	4	10

●自由回答での主な意見

・教育の方向性

「AI 社会だからこそ、身体感覚を伴う体験や探究学習が重要」という意見、また、椅子に座った学習だけでなく、地域産業（漁業・農業）を生かした実体験を重視する意見が見られました。

お金の知識、SNS・AI リテラシー、英語などの「社会に出て困らない力」を求める意見がありました。

ICT 整備は必須としつつも、「ただタブレットがあれば良いわけではない」という、活用の中身を問う意見がありました。

・施設、設備

食育の拠点としての「ランチルーム」の設置要望が非常に多く、地元の食材を調理して食べる体験を望む意見がありました。施設への冷暖房完備はもはや必須項目として挙げられています。今後の人口減少を見据え、将来的な中学校との連携や社会教育施設との複合化、小中一貫校にも対応できる「汎用性の高い設計」を求める意見が見られました。

・学校と地域のあり方

学校を「地域住民が自由に立ち寄れる場所」「交流の拠点」としたいという希望が見られました。

閉校する各校の校歌を新しい校舎に掲げるなど、地域の歴史を断絶させない工夫を求める声が見られました。

・安全、安心

クマ・シカ等の野生動物対策の要望が見られました。

防犯カメラ、防犯モニター、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど、セキュリティと誰一人取り残さない環境整備の両面を求める意見が見られました。

【児童向けアンケート】

●回答総数 77件

伊根小学校児童	56
本庄小学校児童	21
計	77

●新しい学校ができるとしたら、どんな学校にしたいですか

項目/項目内順位	1 番	2 番	3 番	その他記号 (○)	項目回答数合計
みんなが仲よく過ごせる学校	26	5	9	3	43
自分の好きなことを伸ばせる学校	16	11	11	2	40
いろいろな体験ができる学校	12	24	16	2	54
ICTを使った学びができる学校	8	9	9	3	29
自然とふれあえる学校	9	11	11	1	32

●どんな授業があったらうれしいですか

項目/項目内順位	1 番	2 番	3 番	その他記号 (○)	項目回答数合計
プログラミングやロボットの授業	18	9	7	1	35
英語や外国の文化を学ぶ授業	10	8	6	1	25
地域の人といっしょに学ぶ授業	4	10	11	0	25
自然や海・山を使った体験学習	22	15	11	2	50
音楽・図工・体育・家庭科などの実技がもっとできる授業	15	13	14	3	45
自分で調べてまとめる学習	2	6	9	1	18

●新しい学校にほしい施設や設備はありますか

項目/項目内順位	1 番	2 番	3 番	その他記号 (○)	項目回答数合計
明るくて広い教室	15	12	8	2	37
図書室がもっと使いやすくなる工夫	4	5	4	0	13
体育館や運動場の充実	11	7	6	0	24
冷暖房がしっかりしている教室	3	7	10	1	21
タブレットや大型モニターなどICT機器	8	2	7	1	18
理科室・家庭科室などの専門教室の充実	2	5	5	0	12
音楽スタジオのような部屋	1	8	6	0	15
休み時間にくつろげるスペース	21	16	13	3	53

●自由回答での主な意見

・「楽しい生活の場」への期待

児童は「学びの場」であると同時に「楽しい生活の場」を期待している傾向があ

ります。

- ・「休み時間」と「遊び」が人気

自由記述の回答で「休み時間を長くしてほしい」「遊具（アスレチック、トランポリン等）を増やしてほしい」という声が多く見られました。

- ・「居場所」の重視

施設面で「休み時間にくつろげるスペース」を希望する児童が最多であり、学校内に「一人になれる静かな場所」や「カフェのような落ち着く空間」を求める声が目立ちます。

- ・主体的な学びへの意欲

「いろいろな体験ができる学校」への支持が高く、自然体験、実技（体育・図工）、プログラミングといった活動的な学びが求められています。

- ・宿題への本音

多くの児童が「宿題を減らしてほしい（無くしてほしい）」と回答しています。「学校外での遊び」や「自由な時間」を大切にしたいという思いが見られます。

- ・学校行事

「全校旅行」「サバイバル」「魚釣り」「キャンプ」など、学校の枠を超えたダイナミックな体験を期待しています。

- ・施設へのニーズ

エレベーター、ランチルーム、体育館の空調などの具体的ニーズ、「バッチングセンター」「ゲーム部屋」「猫がいる部屋」「トランポリン」といった、学校＝勉強する場所という概念の枠を超えた意見がありました。

また、「トイレを洋式にしてほしい」「明るい教室がいい」など、今の学校での小さな不満を改善したいという切実な願いも含まれています。

- アンケートの内容を踏まえた委員の意見等

- ・学校施設に望むことという部分で、昨今の伊根町の小学校では、授業で他市町のプールを利用している例があるが、移動時間がかかるデメリットがある。新しい施設にプールを設置する事も考えてもらいたい。

→過去から町内学校施設にプールはなく、近隣自治体においてもスポーツクラブ等での水泳事業が増えてきている状況で、新たな施設でプールを設置するかどうかは今後の議論となる。現時点では、教育委員会及び学校で具体的な案は出ていない。

- ・住民アンケートで、新しい施設で優先しなくてもよいことの中で「農園や田んぼなどの体験スペース」の得票が多かったがどのような意図であるか。

→個別意見において「農園や田んぼの体験は絶対に必要ではあるけど、施設内である必要はない」という回答があり、票が集まった理由としては同様の趣旨なのではないかと推察される。

- ・児童と一般用のアンケートで求めるものの違いが見えて面白い。このアンケートの内容をもとに施設設備の要不要を決めていくのか。検討の主軸となる考え方が必要ではないか。

→アンケートの趣旨については、前回委員会で回答のとおり、結果上位を必ずしも採用するという性質のものでなく、協議する上で委員の判断材料として活用することを考えている。検討の主軸となる考え方については、町の総合計画及び教育大綱、それらを踏まえた伊根町立小学校再編計画中、「再編により目指す効果」の項目の達成を目指すことがそれにあたると考えている。

（３）校歌について

新小学校で用いる校歌は、作詞を伊根町立学校で教員として勤められた与謝野町在住の個人の方に依頼し、作曲を京都府内の大学教授に依頼することを提案し、委員会の同意を得ました。作詞については、試案が２案（Ａ案、Ｂ案）示されているうち、地域の自然や歴史を取り入れたＡ案を採用したいと意見があり、作詞者に伝達することを決定しました。以下、意見等。

- ・前回委員会で校歌の選定について意見が思い浮かばなかったが、作詞作曲を音大生に依頼する案はどうか。

→特定の個人に依頼する前段階であれば案の検討ができたが、一旦お願いをしている以上、方向性を変更するのは難しいか。

- ・経験談として、母校において校歌を作った経験がない方が校歌を作り、ポップな曲調であり、慣れることがなかったことがある。校歌制作に経験、知見のある方に依頼した方が良いと思う。

- ・個人的な意見で、２案のうち、校歌らしいと思うものはＡ案の方。

- ・校歌に関するアンケート結果で、地名、地域の特徴を入れてほしいという声が多かった。自分が住んでいる地域が全て出てきたら愛される校歌になるのではないか。

- ・作詞者からは、校歌として２案の両方を用いるという提案もあったが、学校の運用上、そのような運用はできるものか。

→学校としては、１つの校歌の方が指導しやすい。２つあれば練習も２倍になり、使い分けも混乱する。個人的には１つの校歌が良いと感じる。

- ・本庄小学校の校歌の歌詞「伝え聞く史のゆかしさ」、「ひこばえわれら」など児童には意味がとりにくいが、格式がある。伊根小学校の「よろう山並み姿雄々しく」なども意味はわからなくてもそらで歌える。大人になったときにこういう意味だったのかと気づきを得ることもできる。必ずしも子どもにわかる優しい言葉を使わなくても良いのではないかと思う。

- ・具体的な地名等が入っている方が思い入れが持てると思うが、一方で、選ばれなかった地域が出てくると悲しい思いをする人もいるかもしれない。その調整が難しい。

- ・閉校となったかつての伊根町立学校の校歌、それぞれから何語か採用するもの良いのではないか。

(4) 校章・校旗について

校章のデザインについて、住民公募を実施する方針を確認しました。

【公募方法】

7月に伊根町在住の住民を対象とした公募を実施。応募された素案をもとに、デザイン業者へ具体案の作成を依頼し、準備委員会での議論を経て決定するプロセスを確認しました。以下、意見等。

- ・伊根町在住者のみを対象とする理由は何か。
→校名、アンケートと実施してきた経過、流れから同様に伊根町民を対象としているもの。
- ・仮に校名が現状のままであった場合、校章はどのように取り扱う事となるか。
→校名がどのようになるかに関わらず、校歌、校章については再編した新しい小学校として一步を踏み出すという意味でも新たにしていきたい考え。
- ・多色のデザインが採用された場合は、どのようになるか。また、採用者が、SNS等で秘密の情報を流出することの予防措置はあるか。
→一点目、専門の業者により校章としての機能を損なわない形に補正することについて、応募者に同意を得る対応とする。二点目、SNSでの拡散等は、要項に明記するよりは、採用者個別に注意喚起することとなるか。

4 その他

- ・次回会議は8月を予定
- ・第3回委員会の欠席者は1名

5 閉会挨拶（福嶋委員長）